あとがき

遠近法を深く知らなくても絵を描くのに困るわけではありません。目に見えるままに注意深く観察してデッサンをするなら、理屈抜きで十分良い写生は出来るでしょう。また、互いに平行な直線が一点に収束するという一片の知識だけでも十分役に立ちます。著者もまた遠近法の中身は知らないままに過ごして来ましたが、何年か前に油絵を始めたのをきっかけに、遠近法の知識を得たいと思いました。それは描画に必要と言うよりは多分に好奇心からです。手近な絵画遠近法の解説書や建築透視図の技法書を少しばかり読み始めましたが、どうも、本質が分かった気がしません。ですから透視図法の新しい技法が出てくる度に「何故？」が増えます。本の渉猟を止めて、素朴な疑問を抱えて暫くは気の赴くままに専ら自分で考えることにしました。クイズを解く楽しみでもありました。その内に少しずつ透視図法の構造が見え始め、基本法則から自己流に組立て直してそれをメモに整理しました。その過程で新たな気づきや発見があり楽しみは倍加しました。ようやく遠近法について納得が出来たと思い、折角だからその「納得」を多くの人と共有したいと思ってこの小冊子を書き始めました。書く過程でもまた新たな洞察や理解の追加や誤解の修正があり話題は増えそして最後に全てが一つにつながりました。この本の目的は遠近法の新たな知識を提供することではなく、既に大量に提出されている情報をどう整理し、理解するかという点に尽きます。多くの本は作図の手続きを説明しますが、その根拠を易しく解説してくれません。それでも、表面的にはかなりな部分が理解できます。そこで終わっても良いのですが、著者は個人的なこだわりで、全体の構造を把握し納得したいと思い、個々の理解を積み重ねて構造的に構成して見ました。このアプローチに納得される読者はきっとあると信じます。そしてこれまでとは違った次元で透視図法を理解したと感じていただければ幸甚の極みです。

書き終わった今は透視図法の骨まで透視した気分です。これでようやく遠近法のことなどを気にせずに絵が描けるというものです。知ることは解放されて自由になることです。　　（後略）